糖尿病についてのお話
PART4

～糖尿病と診断されたら～

①「かかりつけ医」と地域支援病院

さて、糖尿病と診断されたらどうしたらいいんでしょうか？
生活習慣の改善、食事療法、運動療法、薬物療法とすべき事はたくさんあります。でも、まずは、やはり「かかりつけ医」を作る事です。

糖尿病は残念ながら治癒する病気ではありません。そのために、ほぼ一生付き合っていく覚悟で「かかりつけ医」を見つけることが大切です。もし、あなたが若い女性であれば今後の結婚、出産なども相談しながら乗り越えていく必要があります。また、残念ながら合併症が出ているようであれば、色々な科の医師と連携をとり、その中心でマネージメントをしていただかなければなりません。風邪や怪我などちょっとしたことかもしれませんが、あなたのことをよくわかっている、いつもの「かかりつけ医」の先生にまずは相談し判断していただくことが大切です。

●今後の糖尿病治療のあり方

今後の糖尿病治療のあり方が現在問われています。糖尿病の患者数が毎年増加の一途を辿っています。実際、糖尿病の専門医がこのすべての患者様を治療することは不可能です。そこで、今後は当院のような糖尿病専門医や療養指導士、糖尿病療養チームが充実し日本糖尿病学会から認定されているような施設を中心に地域連携を深めていく必要があると思われます。私たち糖尿病療養チームは、地域支援病院である当院で、将来糖尿病センターのようなものを立ち上げられればいいと考えています。これは、糖尿病の患者様を地域の先生からご紹介いただき、食事療法、運動療法、薬物療法などを行い、また地域の「かかりつけ医」の先生に戻っていただく方法です。入院で治療を開始する場合も外来で行う場合もあります。当院では、２週間の教育入院と２泊３日の糖尿病教室入院を行っています。

地域の先生のところに戻った後も、数ヶ月ごとに当科で状態を診せていただき「かかりつけ医」の先生とともに治療を続けて行くやり方です。センター化できれば受診当日にすべてのコメディカルや合併症のチェックのために内科以外の受診も可能になるでしょう。

私たちは、センター化のために病院に働きかけを続けて行くつもりです。

もちろん、地域の開業医の先生の中には糖尿病専門医の先生もいらっしゃいます。それらの先生や糖尿病以外の専門の先生などとも勉強会・講演会などを行い共通の意識を持ち診療が行えるように地域の診療レベルを上げることも必要と思われます。それらの中心的役割を地域支援病院である当院が担うべきだと考えています。患者様が安心して、かかることのできる「かかりつけ医」とそれをサポートするシステムを構築する必要があります。

次回からは、実際の治療について少しずつお話していきます。